

1 1 【 群馬県立太田高等学校 】

群馬県立太田高等学校

校歌(乙) 式場歌

土井 晩翠 作詞

楠美 恩三郎 作曲

一、赤城浅間を軸として

八州の野の開く端

貫き走る大利根の

岸は母校のたつところ

やまざる流高き山

無言の教あゝ彼に

二、操はしるき中黒の

旗の風に飛びし場

坂東武者の代々つぎて

雄たけび高くゆりし郷

太田高校高き名を

伝えむ責はあゝ我に

太田高等学校校歌は、明治37年ごろに制定されたといわれています。初代校長の三浦菊太郎先生が、第二高等学校の同窓生である土井晩翠先生に校歌の作成を依頼し、当時の太田中学校の所在地ならびに周辺の地図や太田に関する資料を送りました。土井晩翠先生は、一度も太田に来ることなしに、地名や歴史を織り込んだ甲（行軍歌）と乙（式場歌）の校歌二曲を作りました。こうしてできあがった校歌は、100年以上にわたり太田中学校・太田高等学校の生徒に歌い継がれていきました。太田高等学校校歌は、群馬県内の高等学校校歌としては最古のものです。

ちなみに昭和17年5月6日、偶然にも土井晩翠先生が太田中学校に訪れて講演を行いました。その際生徒が誇らしく高らかに式場歌を歌い、土井晩翠先生は校歌をじっと聞きほれていたそうです。

本日は、土井晩翠先生に聞いていただいた太田高等学校校歌乙（式場歌）を披露いたします。